

長良在住 高山光昭

続いて訪れたのが不屈館。あの瀬永亀次郎の膨大な資料の展示、DVDの上映もありました。彼は沖縄の祖国復帰と平和な社会の実現に向け、命がけで闘った人物で、占領下の米軍も彼を恐れていたという。

今の沖縄・辺野古大浦湾を見たら彼は何というだろうか。「一握りの砂も一坪の土地もアメリカのものではない」と生前言っていた彼は。

翌日、陸軍野戦病院跡のガマを見学し、南風原町へ。（東風をこち、西風をならい、南風をはえ、北風があなじなど昔教わったことを突然思い出した）ここは石油備蓄基地としても知られている町です。文化センターでガマについて学び、上方の陸軍病院跡に登り始めたのですが、途中で、戻りの事を思うと体力的に無理と思い、リタイア。

降りていくことに決め、周りにある石碑などを観ながら文化センターで一行を待つ。佐藤栄作総理大臣の『悲風の丘』と刻まれた石碑を観る。裏手の黄金森の公園には日本国憲法九条の碑があり、その裏側には第九条が英語、中国語、ハンダ語で刻まれています。（下の写真）

昼食後に那覇空港より帰路に、とにかく無事に帰着できました。この度のツアーは戦時・戦後、そして戦前の姿を残す沖縄を見て聞いて、体験することが、僅かですができました。

このツアーを企画いただいた「梅子の家」の皆様、大変お世話になり有難うございました。

前川喜平さんの講演会 3・10（土） 市民会館にて

1300人以上の参加者で大盛況でした。日本国憲法の本質をしっかりと受け止めて、なされるべき行政が歪められてはならないという前川さんの意思が伝わってきて、感動的なものでした。

今の政府は憲法99条を無視しているのか、知らないのか、不思議だ？ しかし、彼らを選んだのは私たちだ。私たちは、社会、家庭、学校教育の中で、憲法がどれほど理解され、生かされているのかを考えてみる必要がある。9条だけの問題ではない。前川さんが、夜間中学校を支援されていることの一貫性がここにあることを知った。

※近々、講演集が出ますので、是非手に取ってお読みいただきたい。参加された方も、不参加の方も。大変読みやすく、理解しやすいものです。（平塚）



前川喜平さんの講演から

《憲法と教育は支え合う関係》

「この憲法と教育の関係ということを考えてきたときに、憲法が教育を受ける権利というものを保障している、これは憲法26条に書いてございますが、こういう憲法が教育を守っている、教育の機会というものをきちんと保障する、憲法が教育の機会を保障するという関係があるのと同時にですね、逆に今度は教育が憲法の理想を実現する、こういう関係もある。私は憲法と教育はお互い支えあう関係があると思っていますわけです。」

右記が印象的でした。（井口）

つづき

★ 4月4日 「長良9条の会」

事務局会での話

会報についての意見。憲法について、学習するのも大事だが、もっと身近な、日常的な話題を載せてほしいということをやられました。地域の会なのでやはりそうであるほうが良いのかな。そのうえで憲法にかかわったほうが、より理解しやすいかも。みなさんもしどしど忌憚のないご意見をお寄せいただけたらたいへんありがたいです。

★ この変化、変革の時代にあって、戸惑う私たち。「9条を守り、生かす」活動に意義を見出しはいるが、その先に来べき社会を如何にして構築するのとも見据えた活動でありたい。

街宣や署名をやっている、「安倍が辞めた後、どうするのか。それを言ってくれ」という人に必ずといっていいほど出会う。難しいですよ。ほんとに！みんなで作っていくものですよ。私たちみなので。そういう自分たちであるように、自身にもまわりの人たちにも、働きかけていきたいと思っっている。（平塚）